第２のＣのＬの非水滴定用酢酸第二水銀試液の目の次に次のｌ目を加える。

ビス[(＋)－タルトラト]二アンチモン(III)酸二カリウム３水和物　$C_8H_4K_2O_{12}Sb_2 \cdot 3H_2O$　〔ビス[(＋)－タルトラト]二アンチモン(III)酸二カリウム三水和物、Ｋ 8533〕

第２のＣのＬのフェロイン試液の目の次に次のｌ目を加える。

フェロイン試液　硫酸鉄(II) ７水和物0.70ｇを量り、水70ml及び塩化１，10－フェナントロリニウム１水和物1.78ｇを加えて溶かし、更に水を加えて100mlとする。

第２のＣのＬの硫酸銀の目の次に次の二目を加える。

硫酸試液（2.5mol／Ｌ）　硫酸70mlを量り、水350mlに徐々に加え、冷後、水を加えて500mlとする。

硫酸試液（0.5mol／Ｌ）　硫酸14mlを量り、水350mlに徐々に加え、冷後、水を加えて500mlとする。

第２のＣのＬの硫酸セリウム（Ⅳ）アンモニウム２水和物の目の次に次のｌ目を加える。

硫酸セリウム(IV) ４水和物　$Ce(SO_4)_2 \cdot 4H_2O$　〔硫酸セリウム(IV)四水和物、Ｋ 8976〕

第２のＣのＬのリン酸二カリウムの目の次に次のｌ目を加える。

リン酸緩衝液（エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム含有）　無水リン酸二ナトリウム24.0ｇ、リン酸一カリウム46.0ｇ及びエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム２水和物0.8ｇを量り、水を加えて溶かして1,000mlとする。

第２のＣのＬのリン酸緩衝液（pH6.2）の目の次に次のｌ目を加える。

リン酸緩衝液（pH6.5，１，２－シクロヘキサンジアミン四酢酸含有）　リン酸一カリウム2.7ｇを水で正確に100mlとし、0.2mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液でpH6.5に調整した後、１，２－シクロヘキサンジアミン四酢酸１水和物0.13ｇを加えて溶かす。

第２のＣのＬのリン酸緩衝液（pH7.1）の目の次に次のｌ目を加える。

リン酸緩衝液（pH7.3）　リン酸一ナトリウム138ｇを量り、水800mlを加えて溶かし、水酸化ナトリウム溶液（１→２）でpH7.3に調整した後、水を加えて1,000mlとする。

第２のＣのＺのｉのｍｏｌ／Ｌ硝酸銀溶液の目の次に次のｌ目を加える。

0.005mol／Ｌ硝酸銀溶液　1,000ml中硝酸銀（$AgNO_3$、分子量169.87）0.8493ｇを含む。0.1mol／Ｌ硝酸銀溶液に水を加えて20倍容量に薄める。

第２のＣのＺのｏｍｏｌ／Ｌ硫酸亜鉛溶液の目の次に次のｌ目を加える。

0.1mol／Ｌ硫酸セリウム(IV)溶液　1,000ml中硫酸セリウム(IV) ４水和物（$Ce(SO_4)_2 \cdot 4H_2O$、分子量404.30）40.43ｇを含む。

硫酸セリウム(IV) ４水和物約40.4ｇを量り、硫酸50mlを加えてかき混ぜる。さらに、発熱に注意してかき混ぜながら、水900mlを20mlずつ徐々に加える。24時間放置した後、ガラスろ過器でろ過し、水を加えて1,000mlとする。

標定　本液25mlを正確に量り、硫酸（１→６）30mlを加え、0.1mol／Ｌ硫酸第一鉄アンモニウム溶液で滴定する（指示薬　フェロイン試液　約0.2ml）。終点は、液の色が青緑色から黄赤色に変わるときとする。ファクターは、次の式によって算出する。

$$f = f_1 \times V / 25$$

ただし、ｆ：0.1mol／Ｌ硫酸セリウム(IV)溶液のファクター

f_1：0.1mol／Ｌ硫酸第一鉄アンモニウム溶液のファクター

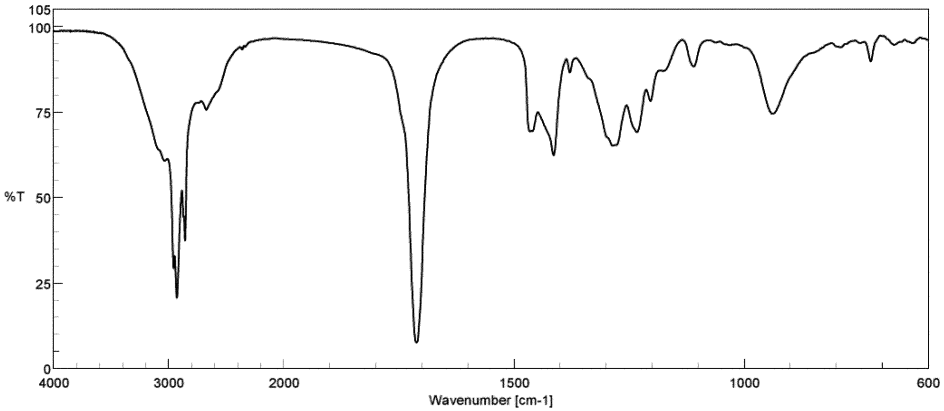
Ｖ：0.1mol／Ｌ硫酸第一鉄アンモニウム溶液の消費量（ml）

第２のＣのＺのｉのイットリウム標準液の目の次に次のｌ目を加える。

イットリウム標準原液　本液１mlは、イットリウム（Ｙ）１mgを含む。誘導結合プラズマ発光強度測定用に調製したものを用いる。

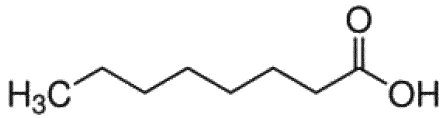
第２のＣのＬｌのオクタナールの目の次に次のｌ目を加える。

オクタン酸



第２のＤのオクタナールの目の次に次のｌ目を加える。

オクタン酸
Octanoic Acid
Caprylic Acid
カプリル酸



$C_8H_{16}O_2$　　分子量　144.21

Octanoic acid　［124－07－２］

含　　量　本品は、オクタン酸（$C_8H_{16}O_2$）95.0％以上を含む。

性　　状　本品は、無色の油状の液体で、わずかににおいがある。

確認試験　本品を赤外吸収スペクトル測定法中の液膜法により測定し、本品のスペクトルを参照スペクトルと比較するとき、同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

純度試験　(1)　酸価　366～396

本品約0.3ｇを精密に量り、香料試験法中の酸価の試験を行う。

(2)　鉛　Pbとして2.0μg／ｇ以下

本品2.0ｇを量り、白金製、石英製若しくは磁製のるつぼ又は石英製のビーカーに入れる。硫酸１mlを加え、徐々に温度を上げ、試料が炭化し、硫酸の白煙が発生しなくなるまで加熱する。必要があれば硫酸を更に加え、試料がほとんど炭化するまで加熱する。試料が炭化した後、容器に緩く蓋をして電気炉に入れ、徐々に温度を上げて450～600℃で強熱して灰化する。炭化物が残る場合は、必要があればガラス棒で炭化物を砕き、硫酸（１→４）１ml及び硝酸１mlで潤し、白煙が発生しなくなるまで加熱した後、電気炉で強熱して完全に灰化する。残留物に塩酸（１→４）10mlを入れ、水浴上で加熱して蒸発乾固する。残留物に少量の硝酸（１→100）を加え、加温して溶かし、冷後、更に硝酸（１→100）を加えて正確に10mlとし、検液とする。なお、500℃以下